

鈴鹿高専

ポケットガイド 2020



NIT (KOSEN), Suzuka College

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), SUZUKA COLLEGE

大学改革支援・学位授与機構高等専門学校評価基準認定校



独立行政法人国立高等専門学校機構

鈴鹿工業高等専門学校

基本理念

教育理念

- (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。
- (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。
- (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。
- (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。

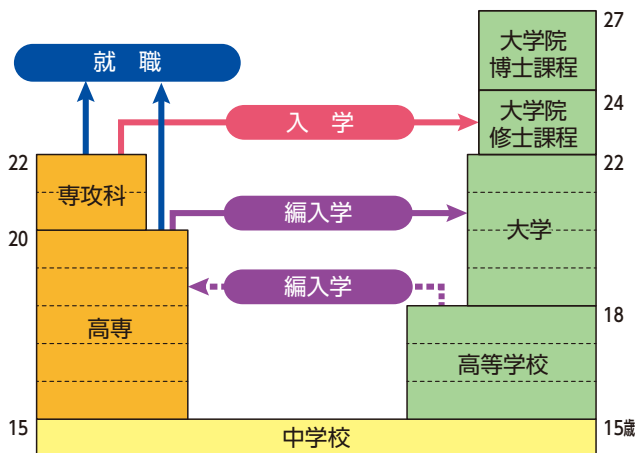
養成すべき人材像

- (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性を持った人材
- (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材
- (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

求める入学志願者像

- (1) 中学における学習内容をしっかりと理解している人
- (2) 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人
- (3) 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人
- (4) 他人を思いやり、協調していける人

高専制度



学科教育

機械工学科

機械工学に関する基礎理論と専門知識(材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産)に加え、メカトロニクス・ロボット工学などコンピュータ応用技術に関する幅広い知識、さらに CAD/CAM を用いた最先端の設計技術・加工技術も習得します。



電気電子工学科

電力供給や鉄道などの社会インフラから、デジタル家電やスマートフォンなどの電化製品・電子機器の設計・生産をはじめ、機械・化学・食品・ICT 産業などの分野で活躍できる電気電子技術者になることができます。本学科は、第2種電気主任技術者の認定対象学科です。



電子情報工学科

プログラミングや計算機アーキテクチャ、ネットワークや OS などソフトウェア系分野と、電磁気、電気回路、電子回路、デバイスなどハードウェア系分野、およびソフトウェアとハードウェアの融合領域に関する知識を学びます。マイコンや FPGA、深層学習等を用いた技術も習得します。



生物応用化学科

工業化学を学ぶ「応用化学コース」と生物学を学ぶ「生物化学コース」があります。両コース共に医薬・化粧品などのファインケミカルズ、プラスチック、環境保全などに関連する基礎から応用までの幅広い知識や技術を習得するほか、最新の化学理論とバイオテクノロジーをそれぞれ学びます。



材料工学科

生活に欠かせないスマートフォン、テレビやエアコンなどの家庭用品から、次世代の自動車、鉄道、航空機やロケットまで、新しい材料が未来を創ります。ものづくり産業をはじめ、エネルギー事業、情報化社会、環境保全など、未来を切り拓く材料の知識と技術を学ぶ学科です。



専攻科教育

技術革新を担うことができる高度で幅広い専門知識を習得させるとともに、研究開発能力、課題探求・問題解決能力、技術者倫理を含む総合的判断力、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、技術開発の場で新たな価値を創造する力を育てます。

また、所定の単位を取得し、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格すると、修了時に大学卒業と同等の学位(学士)が授与されます。

総合イノベーション工学専攻

本専攻は、3コース(環境・資源コース、エネルギー・機能創成コース、ロボットテクノロジーコース)で編成され、各専門分野で培った高度な技術を発展させるとともに、次世代の新技术を創成できる広い視野と幅広い知識を有した創造的実践的技術者を育成します。また、グローバルエンジニアプログラムを設置し、グローバルに通用する高度な技術を持ち、リーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。

【環境・資源コース】

環境・資源コースでは、地球温暖化や酸性雨に代表される環境問題、自然環境破壊抑制のための環境保全、バイオマス・鉱物・水・生物・海洋等各種天然資源の有効利用、環境調和型資源リサイクルリングによる循環型社会の構築等を行うために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を育成します。

【エネルギー・機能創成コース】

エネルギー・機能創成コースでは、次世代の新エネルギー開発、その安定供給、輸送や利用における効率化や関連機能材料等に関わる技術開発を行うために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を育成します。

【ロボットテクノロジーコース】

ロボットテクノロジーコースでは、自身の専門分野を軸としてロボットを構成する技術を高度化し、イノベーションの創出や革新的な応用技術を社会に還元するために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を育成します。

グローバルエンジニアプログラム

今後益々深度化するグローバル化、ボーダレス社会において国際的に通用する高度な技術を持ち、リーダーシップを兼ね備えた人材を養成します。学科第1学年から専攻科2年次までの7年間でグローバルエンジニアとして求められている英語力、交渉力、企画力、実行力、経営力、マネジメント力についても学びます。さらに、専門分野の異なる学生が共に課題に取り組むことにより順応力および強靭さ、優れた人間力を涵養します。

沿革

昭和 37年 4月 1日	鈴鹿工業高等専門学校の設置(機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科で発足)
昭和 41年 4月 1日	金属工学科を設置
昭和 61年 4月 1日	金属工学科を材料工学科に改組
平成 元年 4月 1日	電子情報工学科を設置
平成 2年 6月 5日	アメリカ・オハイオ州立大学工学部と学術交流協定を締結
平成 3年10月 9日	カナダ・ジョージアンカレッジと学術文化交流協定を締結
平成 5年 4月 1日	専攻科(電子機械工学専攻、応用物質工学専攻)を設置
平成 9年 4月 1日	工業化学科を生物応用化学科に改組、生物化学及び応用化学の2コース制を開設
平成14年 4月 1日	共同研究推進センター発足
平成15年 4月 1日	電気工学科を電気電子工学科に改組
平成16年 4月 1日	文部科学省から独立行政法人国立高等専門学校機構へ移管
平成16年 5月10日	技術者教育プログラム「複合型生産システム工学」が日本技術者教育認定機構(JABEE)から認定
平成18年 3月20日	高等専門学校評価基準を大学評価・学位授与機構から認証
平成18年 4月18日	中国・常州信息職業技術学院と学術文化交流協定を締結
平成19年 4月 1日	一般科目を教養教育科に改組
平成24年11月 3日	創立 50 周年記念式典を挙行
平成24年11月26日	大阪大学工学部・大学院工学研究科と教育研究交流に関する協定、実習生派遣に関する覚書を締結
平成25年 3月27日	高等専門学校評価基準を大学評価・学位授与機構から認証
平成29年 4月 1日	専攻科(電子機械工学専攻、応用物質工学専攻)を1専攻(総合イノベーション工学専攻)に改組
平成29年11月10日	ドイツ・ハノーファー大学電気工学及びコンピュータ科学部と学術交流協定を締結
平成30年 2月 9日	モンゴル工業技術大学と連携協力に関する協定を締結
平成30年 2月16日	鈴鹿医療科学大学と研究交流に関する協定を締結
平成31年 3月27日	高等専門学校評価基準を大学改革支援・学位授与機構から認証

特色ある教育事業

■卓越したグローバルエンジニア育成事業

国際インターンシップ、産業界と協働のグローバル・リーダー論、英語力向上、地域との連携等の取り組みを中心とした「グローバルエンジニアプログラム」を強力に推進し、専攻科の高度化に呼応した「卓越したグローバルエンジニア」を養成します。



■産業界が求めるロボット技術者を育成するためのロボット工学教育

社会ニーズ結果をもとにして、産業界が求める「特化した技術を有する人材の確保」に応えるべく、中堅・中小企業で活躍できるIoTやロボットを活用したシステムの構築・導入を支援できる人材の育成を行います。



■情報セキュリティスキル・モラルを備えたエンジニアの育成事業

地域の情報セキュリティレベル向上及び産業界を情報セキュリティ面から支える人材を輩出するために、情報セキュリティに長けた実践的な対応力・教育力を有する学生の育成を行います。



収入・支出 (平成 30 年度)

収 入 【単位：千円】	支 出 【単位：千円】
運営費交付金 129,894	業務費 442,499
授業料等収入 289,017	産学連携等研究費 11,675
産学連携等研究収入 31,074	寄附金事業費 24,583
寄附金収入 26,982	その他補助金事業費 0
その他補助金収入 0	
合 計 476,967	合 計 478,757

学生数 (令和 2 年4月1日現在)

学 科	定員	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	計
機械工学科	40	41	46	52	43	33	215
電気電子工学科	40	41	44	45	47	44	221
電子情報工学科	40	42	40	43	36	34	195
生物応用化学科	40	40	44	44	45	42	215
材料工学科	40	41	44	44	42	40	211
合 計	200	205	218	228	213	193	1,057

専攻科	定員	1 年	2 年	計
総合イノベーション工学専攻	24	32	23	55
合 計	24	32	23	55

教職員数 (令和 2 年4月1日現在)

校長	教授	准教授	講師	助教	事務職員	技術職員	再雇用	計
1	33	22	17	2	26	16	5	122

教員一覧

職名	学位	氏 名	専門分野
校 長	博士	竹茂 求	物性理論

機械工学科			
教 授	博士	末次 正寛	材料力学・破壊力学
教 授	博士	近藤 邦和	流体工学
教 授	博士	民秋 実	機械力学
教 授	博士	藤松 孝裕	熱工学
教 授	博士	白井 達也	ロボット工学
嘱託教授	博士	佐脇 豊	機械加工学・材料力学
准教授	博士	白木原香織	材料強度学・材料信頼性評価
准教授	博士	打田 正樹	制御工学
准教授	博士	鬼頭みずき	伝熱工学・流体工学
講 師	博士	正木 彰伍	数理工学・宇宙物理学
助 教	博士	陳 妍	加工プロセス工学

電気電子工学科			
教 授	博士	川口 雅司	情報処理工学
教 授	博士	横山 春喜	半導体デバイス工学
教 授	博士	辻 琢人	半導体工学
嘱託教授	博士	近藤 一之	電子回路
嘱託教授	博士	奥田 一雄	電子機器・電子材料工学
准教授	博士	西村 一寛	磁性材料・磁気工学
准教授	博士	柴垣 寛治	プラズマ理工学・量子エレクトロニクス
准教授	博士	山田伊智子	半導体工学
准教授	博士	西村 高志	表面電子物性工学
講 師	博士	橋本 良介	磁性材料・非破壊検査工学
講 師	博士	生田 智敬	非線形工学

職名	学位	氏名	専門分野
----	----	----	------

職名	学位	氏名	専門分野
----	----	----	------

電子情報工学科

教授	博士	飯塚 昇	無線通信工学
教授	博士	伊藤 明	電子計測
教授	博士	田添 丈博	自然言語処理
教授	博士	箕浦 弘人	バーチャルリアリティ
准教授	博士	森 育子	環境電磁工学
准教授	博士	青山 俊弘	情報工学・生理工学

准教授	博士	板谷 年也	計測工学・非破壊検査工学
講師	修士	平野 武範	情報工学
講師	博士	岡 芳樹	コンピュータグラフィックス
講師	博士	佐藤 弘一	原子核物理学

生物応用化学科

教授	博士	下野 晃	無機材料化学
教授	博士	船越 邦夫	化学工学・結晶化学
教授	博士	平井 信充	界面制御工学・電気化学
教授	博士	山本 智代	機能高分子化学・キラル分析
教授	博士	高倉 克人	構造有機化学

教授	博士	山口 雅裕	発生生物学・比較内分泌学
准教授	博士	淀谷 真也	高分子合成化学
准教授	博士	小川亜希子	動物細胞工学・生物化学工学
准教授	博士	甲斐 穂高	環境科学・排水処理
講師	博士	今田 一姫	分子細胞生物学・分子遺伝学・微生物学

材料工学科

教授	博士	小林 達正	金属物理
教授	博士	兼松 秀行	熱表面処理工学・バイオフィルム工学・STEM教育
教授	博士	下古谷博司	低負荷型環境材料
教授	博士	南部 智憲	金属物理・合金設計
教授	博士	和田 憲幸	無機材料化学・分光分析

教授	博士	黒田 大介	加工熱処理工学・金属組織学
准教授	博士	万谷 義和	金属組織学
准教授	博士	黒飛 紀美	バイオマテリアル工学
講師	博士	幸後 健	無機材料・電気化学
講師	博士	小俣 香織	触媒化学
助教	博士	河合 里紗	コロイド・界面化学

教養教育科(人文社会)

教授	修士	久留原昌宏	日本近代文学・短歌創作論
教授	修士	石谷 春樹	日本近代文学
講師	博士	藤野 月子	中国古代外交史

講師	博士	熊澤 美弓	日本近世文学・近世文化史
講師	博士	笹岡 伸矢	比較政治学

教養教育科(自然科学(数学))

教授	修士	伊藤 清	リー環論
教授	博士	堀江 太郎	整数論・保型形式
准教授	修士	川本 正治	数学教育学
准教授	博士	大貫 洋介	代数学 (多元環の表現論)

准教授	博士	飯島 和人	代数学
講師	博士	桑野 一成	凸解析, 数理計画法, ゲーム理論

教養教育科(自然科学(理科))

教授	修士	山崎 賢二	触媒化学
教授	博士	仲本 朝基	原子核理論
嘱託教授	博士	田村陽次郎	ソフトマターの物理

准教授	博士	丹波 之宏	生物物理学
准教授	博士	三浦 陽子	固体物理学

教養教育科(外国語)

教授	修士	林 浩士	英語教育学
教授	修士	日下 隆司	アメリカ文学
准教授	博士	マイケルローソン	社会学

准教授	修士	松尾江津子	イギリス文学
講師	修士	長井みゆき	TESOL・英語学
講師	修士	古野 百合	イギリス文学

教養教育科(保健体育)

教授	学士	船越 一彦	トレーニング理論
講師	博士	村松愛梨奈	運動生理学

講師	修士	宝来 毅	スポーツ バイオメカニクス
----	----	------	------------------

目 標

1 教育に関する目標

【学科教育】

5年一貫の教養教育及び実践的工学教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身に付けた人材を育てます。

【専攻科教育】

より高度で幅広い専門知識や創造力、判断力を身に付け、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者を育てます。

2 研究に関する目標

教育内容を学術の発展に即応させるため、継続して研究を行います。そのために必要な学術的研究のみならず先進的な研究、学科間を越えた複合・融合領域研究、産学官連携による共同研究・受託研究も推進します。これらの研究成果を発表や知的財産化等で広く社会に提供し、人材育成及び地域・産業界に貢献します。

3 社会との連携や国際交流に関する目標

地域交流・地域連携・産学官連携等を通じて本校の教育研究の成果を社会に還元し、その連携協力を努めます。また、地域の生涯学習機関としての役割を果たします。

さらには、外国の高等教育機関との協定に基づく学生の国際交流を継続発展させ、国際的な視野と知見を備えた技術者の育成を図るとともに、留学生の受入れを積極的に行います。

4 管理運営に関する目標

校長のリーダーシップの下に、運営会議を中心とした施策立案、審議執行及び評価監査のサイクルを確立するとともに、迅速かつ効率的な運営を図るため、運営会議及び各種委員会の位置付け、機能及び審議・協議事項の明確化を図ります。

また、本校における教育研究等の活動全般について自己点検・評価を行うとともに、広く外部からの意見を取り入れ、開かれた学校運営を行います。

さらには、限られた各種資源を戦略的に配分するため、本校の運営方針に基づき、重点的に資源配分する仕組みを整備するとともに、教職員が行う業務の改善に努めます。また、事務処理の効率化・簡素化並びに事務職員及び技術職員の資質の向上に努めます。

地域貢献・地域開放事業

○男女共同参画推進活動

- ・高専の専門教育・学生生活のポスター発表(高専女子フォーラム in 関西)
- ・高分子を使った液晶づくり、液体窒素を使った実験など
(リコチャレ「ものづくり体験」鈴鹿市)

○中学校への出前授業

鈴鹿市等の教育委員会と連携して実施しています。授業を受けた参加者からは理科が好きになったなどの声が多く聞かれます。

○技術相談

地域貢献の一環で技術相談を実施しています。技術相談から共同研究を実施したケースもありますので、お気軽にご連絡ください。

○ものづくり体験教室(小・中学生向けの公開講座)

- ・機械工学のひとこま
- ・楽しいロボット電子工作
- ・マイコン電子制御
- ・身のまわりのおもしろ化学実験
- ・ポンポン船でサイエンス
- ・酵母菌探索隊～自然界から野生の酵母を探そう～



<連絡先>総務課地域連携係 Tel : 059-368-1717

研究活動等

■ 科学研究費補助金・基金助成金 (令和元年度)	基盤研究(C)	11件
	挑戦的研究	1件
	若手研究(B)	5件
■ 共同研究(令和元年度)	民間等との共同研究	13件
	共同研究(産学官協働研究)	3件
	受託研究	2件
■ 奨学寄附金(令和元年度)		47件
■ 大学教育改革の支援事業等(令和元年度採択分)		
情報セキュリティ人材育成事業(実践校)		1件

施設紹介

図書館

所蔵図書は約10万冊あり、専門図書に限らず一般図書も多数所蔵しています。

また、一般の方々に生涯学習の場として開放しています。(学生イベント、夏季休業期間等で休館日・時間の変更がありますので、ホームページか電話で確認してください)

開館日 平日 9時～20時30分
土曜日 9時～17時

休館日 日曜、祝日

〈連絡先〉図書館 Tel : 059-368-1733



学寮

構内に4棟からなる学寮があります。各居室にはエアコン、有線LANが整備され、寮生は恵まれた環境の中で勉学に励み、快適な共同生活を送っています。

学寮は、友愛、協力、自立の精神を培い、技術者として必要な資質を養うための教育施設でもあります。そのために、毎日、教員が当直寮監として指導にあたり、規律ある生活ができるように配慮されています。



研究施設等

- ◆ 共同研究推進センター
- ◆ 情報処理センター
- ◆ 青峰会館(学生食堂他)
- ◆ クリエーションセンター
- ◆ イノベーション交流プラザ 他



○敷地面積 120,551 平方メートル
○建物延面積 38,635 平方メートル

国際交流

学術交流協定を締結しているオハイオ州立大学(アメリカ)、ジョージアンカレッジ(カナダ)、ハノーファー大学(ドイツ)及び常州信息職業技術学院(中国)と交流を深めています。

令和元年度は、オハイオ州立大学、ハノーファー大学への学生派遣、ジョージアンカレッジへの語学研修を実施しました。さらに、マレーシア、インドネシア、モンゴルより留学生を受け入れ、国際交流の進展にも寄与しています。



学生の活躍 (令和元年度)

- ・全国高等専門学校体育大会 優勝
陸上(女子走高跳)
テニス(男子個人ダブルス)
- ・全国高等専門学校将棋大会
団体の部 優勝
- ・パソコン甲子園モバイル部門 グランプリ
- ・全国高専ロボコン 全国大会出場



卒業後の主な進路 (過去3年間)

○進学先 学科

鈴鹿高専 専攻科、北海道大学、東北大学、筑波大学、千葉大学、東京大学、東京農工大学、東京工業大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、埼玉大学、長岡技術科学大学、金沢大学、福井大学、信州大学、岐阜大学、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学、京都大学、京都工芸繊維大学、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学、島根大学、岡山大学、広島大学、九州大学、琉球大学、東京都立大学、大阪府立大学、立命館大学 他

専攻科

東京大学大学院、東京工業大学大学院、電気通信大学大学院、名古屋大学大学院、名古屋工業大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学、早稲田大学大学院、慶応義塾大学大学院 他

○就職先

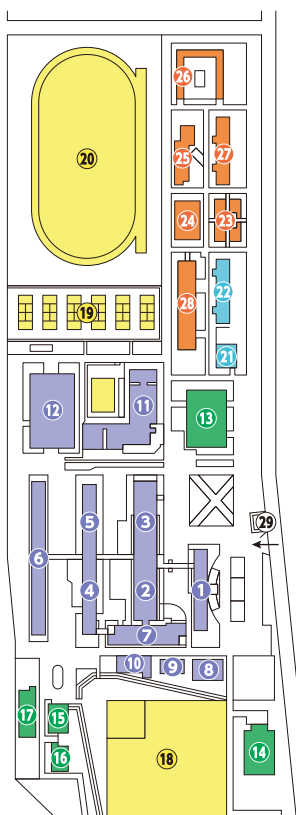
旭化成、NTN、NTT-ME、大阪ガス、オムロン、花王、カゴメ、関西電力、キオクシア、麒麟ビバレッジ、KDDI エンジニアリング、JSR、JR 東海、ジャパンマリンユナイテッド、昭和四日市石油、SUBARU、住友電装、太陽化学、武田薬品工業、中部電力、DIC、東亜合成、東邦ガス、東レ、トヨタ自動車、豊田中央研究所、ナブテスコ、日揮、日産自動車、日本精工、日本製鉄、任天堂、P&G、ファナック、富士通、富士電機、本田技研工業、三井化学、三菱ケミカル、三菱重工業、三菱電機ビルテクノサービス、美和ロック、明電舎、矢崎総業、ロート製薬 他

アクセス

近鉄名古屋線白子駅下車、三重交通バス白子駅西口から平田町行
又は鈴鹿サーキット行に乗車約10分、東旭が丘3丁目下車、徒歩約
7分。



校内地図



- ① 総務課・学生課・教養教育科
- ② 生物応用化学科
- ③ 教室
- ④ 電気電子工学科
- ⑤ 材料工学科
- ⑥ 機械工学科
- ⑦ 電子情報工学科
- ⑧ 専攻科
- ⑨ 材料分析室
- ⑩ 共同研究推進センター
- ⑪ 情報処理センター・図書館
- ⑫ クリエーションセンター
- ⑬ 第1体育館
- ⑭ 第2体育館
- ⑮ 剣道場(修道館)
- ⑯ 柔道場(弘道館)
- ⑰ 弓道場(志誠館)
- ⑱ 野球場
- ⑲ テニスコート
- ⑳ 陸上競技場
- ㉑ 青峰会館
- ㉒ イノベーション交流プラザ
- ㉓ 寮事務室・浴室
- ㉔ 寮食堂
- ㉕ 青峰寮A
- ㉖ 第1青峰寮
- ㉗ 第2青峰寮
- ㉘ 第4青峰寮
- ㉙ 守衛室

集まる 若人
秩序の中にて
自由をよるこび
鍛えらる 海のほとりに
鍛えらる 山のおろしに

～鈴鹿工業高等専門学校 校歌より～



鈴鹿高専ポケットガイド2020

発行 令和2年5月

独立行政法人国立高等専門学校機構 鈴鹿工業高等専門学校

〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町

TEL : 059-386-1031 (代表)

FAX : 059-387-0338

<https://www.suzuka-ct.ac.jp/>

総務課総務企画係

TEL : 059-368-1711

総務課経理係

TEL : 059-368-1721

学生課教務係

TEL : 059-368-1731

学生課学生支援係

TEL : 059-368-1732

学生課入試係

TEL : 059-368-1739

図書館

TEL : 059-368-1733

